



つながるカレッジねりま みどり分野

ねりまの森維持管理コース 講座だより

第3回「森の草本類の特徴と草刈りを学ぼう①(手刈り・貴重種保全)」

日時：令和4年6月11日(土) 9:30～12:30

会場：羽根木憩いの森(羽沢3-2)

今回の講座の流れ

前半は、練馬区の憩いの森等にみられる希少種や、繁茂に気を付けた植物、草地の管理方法について学びました。後半は、安全管理の確認後、管理の目標と方針を設定し、それに合わせて実習を行いました。

各プログラムの様子



講義の様子



鋤簾(ジョレン)のレクチャー



シャガの刈り取り実習の様子



植物マーキングの様子

練馬の森の植生と、環境保全に配慮した管理の方法について

区内で見られる希少種や、侵略的外来種について学びました。また「植物や生きものの保全に配慮する管理」では、森等を管理する上で大切な、4つのポイント(マーキング、選択的除草、生きものに配慮した管理、地域から理解を得るために)を、学習しました。

安全と美観に配慮した草の管理

訪れる人に、森の管理が行き届いている印象を効果的に与える、草刈りのコツを学びました(入口・園路沿いは草を綺麗に刈り取る等)。また、目的に応じた鎌の種類や鋤簾(ジョレン)の使い方について、説明がありました。

安全管理の確認と、道具の使い方

今回使用する中厚草刈り鎌の特徴や注意点について学びました。そして、鎌の使い方練習として、講師指導の下、シャガの刈り取りを行いました。

実習地の観察、マーキング、選択的除草

今回の草刈り実習地の目標設定(草丈の低い在来種のスミレ等を残した草地)と管理方針(繁殖力の強い草本や侵略的外来種は積極的に除去する)を共有した後に、2グループに分かれ、キショウブ・シュロの除去と、選択除草を行いました。

ねりまの森維持管理コースについて

地域の貴重な財産である憩いの森などを守り育てるため、管理活動に必要な知識と技術の習得を目指す講座です。座学と実習を交えて、草刈りや中低木の剪定技術などについて学びます。

今回のキーワード

草花は同じ目線で見てあげることが大切

森林インストラクター東京会池田正博

草地には年間を通じて多種多様な植物がたくましく生きていて、その勢力争いの凄さに気づかされます。そのため、保護すべき植物には、日照条件や湿気などの環境に配慮しつつ、その植物に寄り添った管理が大切です。また、管理する人の「思いやり」や「想い」が武蔵野の植物などの保存につながります。

植物の環境づくりに正解はありません。失敗を恐れずやりましょう。多少の失敗があっても、生きものは期待に応えてくれるはずですよ。

森でみつけた!

生命力の強い実生木



シュロは、昔から縄や屋根材として活用され、憩いの森でもよくみられます。その実は小粒で数が多いため、鳥の貴重な食料となっています。しかし、果実の中に含まれる発芽率の高い種は、鳥のフンからも芽を出し、実生木として森の中で急速に成長します。

実生木が増えると、森が暗くなります。暗い森は、明るい場所を好む在来種の生育を阻害するだけでなく、訪れる人からの印象もあまり良くありません。森と生きもののバランスを意識した管理を心がけましょう。